

草津市立志津南小学校

わたしたちの暮らしを考えよう～ごみ・水をテーマに～

第4学年 指導者 岩本宏子 西村陽介

1. 1年間の学習の流れ

1学期...自分たちでできるエコ活動について考えよう

社会科 『ごみの処理と利用』

草津市のゴミの捨て方やどのようなものがゴミになっているのかを学びました。その後クリーンセンターに行き、ゴミが処理されていく過程やゴミがリサイクルされるまでの過程を見学しました。子どもたちはゴミの多さや、ゴミを処理することに多くの費用を使っていることに驚きました。そしてゴミを出さない工夫が、大切であることに気が付きました。

社会科 『水はどこから』

自分たちが日々何気なく使っている水道水は、琵琶湖の水であること、自分達が使った後はまた琵琶湖に戻っていくことを学びました。

さらに「ロクハ浄水場」と「湖南中部浄化センター」に見学に行き、理解を深めました。水をきれいに使うことが琵琶湖の水をきれいにすることに気が付きました。



総合的な学習 『わたしたちの暮らしを考えよう』...自分達ができるエコをやる

社会科で学んだゴミを減らす3R(リユース・リサイクル・リデュース)をもとに、毎日の暮らしの中で自分たちができるエコ活動を考えて実施しました。子どもたちは、お家の方の協力のもとに水の節約や、牛乳パックのリサイクル、古着をリサイクルしたエコバック作りなどに取り組みました。毎日の小さなエコこそが大切だと感じる事ができました。そして夏休みには、自分が実践したエコ活動についての日記を書き続けました。

国語科 『「くらしの百科」の時間です』

2学期が始まり、子どもたちが1学期から取り組んできたエコ活動についての発表会をしました。「地球温暖化」・「お風呂から始まるエコ」などのテーマのもとに、子どもたちは劇や紙芝居を作成し他の学年にも発表をし、エコ活動の大切さについての理解を求めました。

2学期...自然環境を大切にしよう

社会科 「昔のくらし」



社会科では、昔は物を大切にしながら暮らしていたことを学びました。子どもたちの中には、今の生活は便利になった反面、無駄なものが多いのかもしれないという感想を持った子どももいました。

さらに嘉田知事を特別講師として迎え、「昔のくらしと水の使い方の工夫」をテーマに授業をしていただきました。琵琶湖を大切にしながら暮らしてきた昔のくらしを子どもたちは知ることができました。

琵琶湖の水を使って茶碗を洗い、そのごはんの残りかすを食べに魚などが来ていた話や、そこで「しじみ」などを採って家に持って帰るのが子どもの仕事であったという話も聞きました。子どもたちは、琵琶湖の恵みが生活の中にあつたことを知りました。そして感想に「楽しみながらお手伝いをして協力をして、家族が暮らしている姿が印象に残った」や「昔は知恵を出し合って協力しながら暮らしていたんだな」と話す子どもがいました。

物や自然を大切にすることは、相手を思いやる優しい気持ちにも繋がっていることを学びました。

社会科「残したいもの・伝えたいもの」...マンボから

草津川が天井川になった原因は、田上山の森林が伐採され、大量の土砂が草津川に流れ込んだことが原因です。山に木々があれば、水がゆっくりと地面にしみこみ、水を溜め込むことができることを学びました。人間の身勝手さから森林が無くなり災いが起こったこと、そして森林を復活させるには、多くの時間と労力が必要であることも学びました。



総合的な学習「やまのこ」

森林を保全していくためには、山を整備していくことが大切です。そのためには、間伐をしなければならないことを学びました。間伐体験をし、木が倒れた時の子どもたちの感動は大きかったです。また間伐した木の皮をむいてみると、木がしっかりとぬれていました。木が根からしっかりと水を吸収している証拠であることを知り、子どもたちは驚いていました。山の水は、木の中にもしっかりと蓄えられていました。さらに、その木の匂いを嗅いだり味を確かめたりしていた子どもが「先生、木によって違う」と嬉しそうに話していました。

琵琶湖には460本もの河川から水が注ぎ込みます。そして琵琶湖の豊かな水資源は、豊かな森林に支えられています。そのためにも森林を大切にしたいという思いを持つことができました。



社会科・総合的な学習「琵琶湖博物館見学」

2学期の学習のまとめとして、琵琶湖博物館に行きました。

まず、嘉田知事に薦められた富江家を見学しました。学芸員から物や水を大切にしたり暮らしの工夫についての話を聞きました。子どもたちは、昔のエコな生活の良さにさらに気が付き、今の暮らしに生かしていきたいという思いを深めました。

また田上山の砂防ダムについての展示や森林の役割についての展示から、森林を大切にしていくことの必要性を確認しました。

子どもたちは、豊かな水資源を支えるためには 水を大切にする暮らしと 自然環境の保全の大切さが重要であることを再度学習しました。



3学期...豊かな滋賀県の自然環境を知ろう

総合的な学習 「琵琶湖一周」

地図の上から見ていた滋賀県を、鉄道を使って1周しました。電車の中から見る琵琶湖は美しかったです。近江今津で琵琶湖を間近に見た子どもが、「嘉田知事さんが、琵琶湖の水はきれいで飲めると話していたのが分かった」と話していました。また地域の魚屋では、琵琶湖でとれた鮎やもろこが売られていました。豊かな琵琶湖の水の恵みに気がついた瞬間でした。



2. 成果と課題

1学期は、社会科で学んだ「ごみ・水」から発展し、総合的な学習で自分たちにできるエコ活動についての実践をしました。

さらに2学期は、「水」を主なテーマにしながら総合的な学習を展開しました。国語科などの教科や「やまのこ」・「琵琶湖一周」などの行事とも関連させることで、子どもたちの学びがより深まりました。子どもたちは、琵琶湖の豊かな水環境は、一人ひとりの努力と豊かな自然環境とに支えられていることを学びました。

本校では、3学期から黒田紙業株式会社との連携による「クロボくと友だちになろう! = 古紙回収エコ事業 = 」が行なわれています。毎週金曜日の朝、4~6年生の児童が家庭から新聞や牛乳パックなどを持ってきます。そして回収された古紙は、リサイクルされて本校で使うトイレトペーパーに変えられていきます。このようにエコ活動の場が日常的に、しかも子どもたちに見えやすい形で展開されていくことが、子どもたちの未来のエコ意識を育てていくことに繋がっていきます。

環境教育は、学校での学習や単元が終わったら終わるという学習ではなく、オープンエンド型の学習が望ましいと考えています。そして何よりも大切なことは、自分たちの暮らしを何度も振り返り、生活環境をより良くしていきたいという「思い」やそういった「視点」を育てていくことです。そのためにも子どもたちに、様々な学習や生活の中で意図的にエコ環境を意識させるような教育の場を今後も設定していきたいと考えています。

